

とき 「旬あじまつり」 参加店舗に認定書

「旬あじまつり」参加店舗認定書授与式が4月10日、松浦商工会議所で行われました。

「旬あじまつり」(まつうら海鮮街道実行委員会主催)は、ブランド魚「旬あじ」を使った料理を、期間中参加店舗で振る舞うもので、地産地消・交流人口増大を目的に開催され、今年で3回目。昨年は19,200食を売り上げました。

この日は、小松英史^{えいし}会長が「おもてなしと満足のいく料理を提供し、松浦を『魚の町』として定着させてい



いです」とあいさつ。その後、小松会長から市内の飲食店や旅館など12店舗の代表者に認定書が手渡されました。

「旬あじまつり」は、4月12日から8月31日まで開催されます。

専門家が水産加工品を評価

水産加工品の品質向上と販売力強化を目指す「松浦市養殖魚加工拠点推進アドバイス会」が3月28日と29日の2日間、市内のホテルや水産施設で開催されました。

市や漁協、水産業者でつくる松浦市養殖加工拠点形成推進協議会(板谷國博^{くにひろ}会長)の主催で開かれたものです。

会合では、アドバイザーとして招いた大阪、福岡、長崎の大手流通業、総合スーパー、水産卸業者などの食品担当者が、漁協や水産加工業者が商品化している「トラフグ刺し身^{とさ}セット」や「旬シメサバ」など約60商品について、味やパッケージのデザインなどの評価を行いました。



松浦なぎなたクラブが 公式戦に初出場

松浦なぎなたクラブが3月24日、25日の2日間、福岡市で開催された第24回若獅子旗西日本なぎなた大会(九州なぎなた連盟など主催)に出場しました。

同クラブは、市が長崎県のなぎなた競技強化拠点に指定されたことから、なぎなた競技の普及と技術向上を目的に昨年8月、松浦なぎなた協会の運営で結成されました。現在、小学4年から成人までの11人が、毎週土曜日、武道館で練習に励んでいます。

指導にあたっている坂本絵美子^{えみこ}さん(今福・仏坂)は「今回は公式戦で1勝をあげることができました。

今後も『なぎなたの町松浦』を目指し、チーム一丸となってがんばりたいと思います」と話していました。



「道の駅」にライオン像

ライオン像の除幕式が4月15日、道の駅松浦海のふるさと館で行われました。

地域の水産業を応援しようと、水産事業などを行っている東洋水産から寄贈されたものです。

ライオン像は中国で造られたもので、高さ2^{メートル}、重量2^{トン}の雌雄の2頭。中国では「街を守る像」と言われています。

この日は、約40人の関係者と、海のふるさと館を訪れた人が見守る中、友広市長や会場を訪れていた子どもたちで除幕を行いました。

また、除幕式の後、もちまきやヘリコプター遊覧なども行われました。

